

活動報告

JR九州は2024年春のダイヤ改正で、鹿児島本線の福岡エリアで日中の快速列車の運転区間を延長(復活)します。一昨年の大幅な減便などで県南地域の通勤・通学の足は大きなダメージを受け県議会でも取り上げました。

博多駅の23年10・11月の利用状況は

7～9時台	10～16時台	17～21時台	22時～
△5%	△2%	△8%	△22%

この数字をどう分析するのかはあるとしても、県南地域の沿線自治体や住民は今回の改正は一步前進と考えています。

また、西鉄は天神大牟田線で新型コロナウイルスの感染拡大で取りやめていた平日の特急列車の運行本数を大幅に増便します。西鉄のダイヤ改正はコロナ禍前の水準にほぼ戻ったといえそうです。

この他、春日原駅に特急列車の停車、福岡市内に新駅の開業、平尾駅と高宮駅で平日の通勤時間帯に新たに上りの急行が停車、など福岡都市圏の利便性向上が目立ちます。

県政報告



月刊えぐち
2024冬
vol.1

福岡県議会議員 江口よしあき
自民党福岡県議団

発行/江口よしあき事務所
〒830-0062 久留米市荒木町白口2324-3
古賀第2ビル103号
TEL 0942-26-3324 FAX 0942-26-3382
Mail:office@eguchi.ne.jp

江口よしあきプロフィール

1974年 久留米市荒木町に生まれる
1980年 久留米市立荒木保育園を卒園
1986年 久留米市立荒木小学校を卒業
1989年 福岡教育大学附属久留米中学校を卒業
1992年 松尾学園弘学館高等学校を卒業
1997年 早稲田大学社会科学部を卒業
同 年 九州朝日放送(KBC)に入社
2003年 久留米市議会議員に初当選(連続2期)
2011年 福岡県議会議員に初当選
現 在 県議4期目

令和6年・福岡県議会日程(予定)

2月定例会 2月22日(木)～3月22日(金)

■傍聴について

県議会の会議は公開を原則としていますので、会議中はいつでも傍聴でき、傍聴を希望される方に傍聴券を交付しています。最新及び詳細は福岡県議会ホームページで。

月刊えぐち VOL. 1

2024年

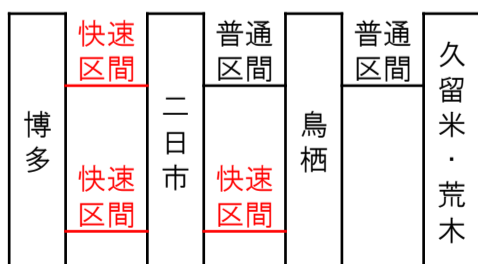
JR九州のダイヤ改正

2024年春のダイヤ改正に対しては、例えば私の地元、JR荒木駅を利用する住民は歓迎しています。

今回の改正で一時間に1本は、博多駅方面と荒木駅間を乗り換えなしで行き来できるようになったからです。

日中時間帯(10時～16時台)の区間快速列車
(時間帯によっては異なる)

現行



改正



鹿児島本線(福岡エリア)では日中時間帯に毎時2本運転している区間快速列車の内1本が羽犬塚駅まで延長されます。

この他、羽犬塚駅の利用者には夕方の博多駅方面行の快速列車が新設、夜の快速列車が羽犬塚駅終点から荒尾駅終点へ変更、同じく荒木駅終点が羽犬塚駅終点に変更されます。

一方、鹿児島本線の博多駅方面から荒木駅行きの最終列車の行先が久留米駅行きに変更されます。この変更により現行の一番前の荒尾駅行き区間快速列車・荒木駅着23時46分が最終となり、30分の繰り上げとなります。

	博多発	二日市発	鳥栖発	久留米発	荒木着
現行	23:16	23:43	0:03	0:11	0:16
変更	23:16	23:43	0:03	0:10着	

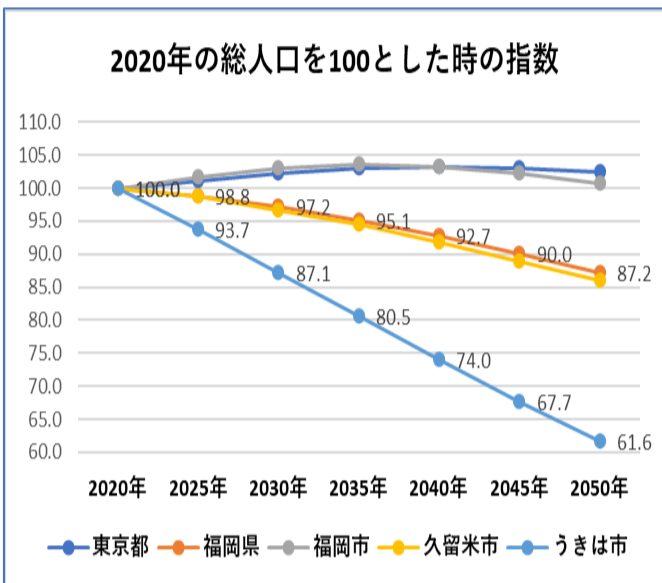
西鉄でもありましたが、ダイヤ「改正」は、どうしても乗降客が多い都市圏の利便性向上に偏りがちです。粘り強く声を上げる必要があります。

人口減と高齢化①～将来推計人口～

国立社会保障・人口問題研究所が「日本の地域別将来推計人口」のまとめです。

- 2050年の65歳以上人口は、2020年を下回る市区町村が全体の約70%に。
- 2050年の総人口は東京都を除き2020年を下回り、11県で30%以上減少。

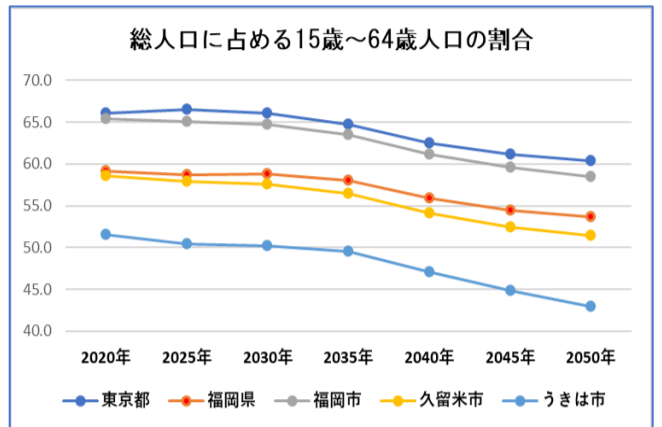
全国の話ではピンとこないので福岡県の数字を見てみます。



東京都と福岡市、福岡県と久留米市が同様のカーブを描いています。

一極集中と言われる東京と同様、福岡市・糟屋郡・福津市の福岡都市圏が2050年でほぼ人口を維持しています。

一方、久留米市の傾向は福岡県の平均値と言うことになるのでしょうか？下のグラフは働き手、あるいはそれを担う15歳～64歳の総人口に占める割合です。



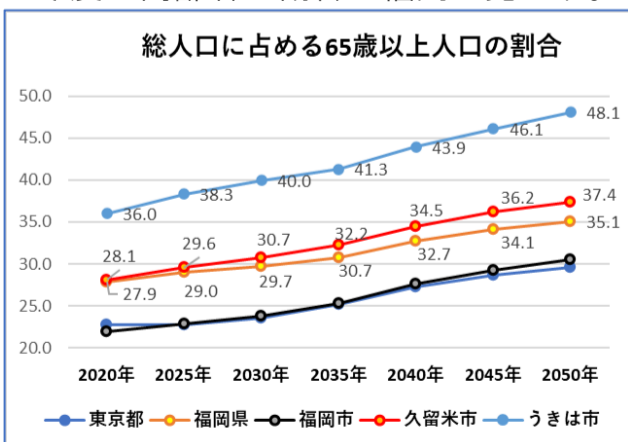
東京や福岡市でも低下しています。つまり、総人口が変わらなくても働き手の割合が減っているということです。

高齢化とは、単に高齢者の実数が増えることではなく、人口に占める高齢者の割合が増加し、年金などの担い手が減少する、という切実な問題なのです。

人口減と高齢化②～将来推計人口～

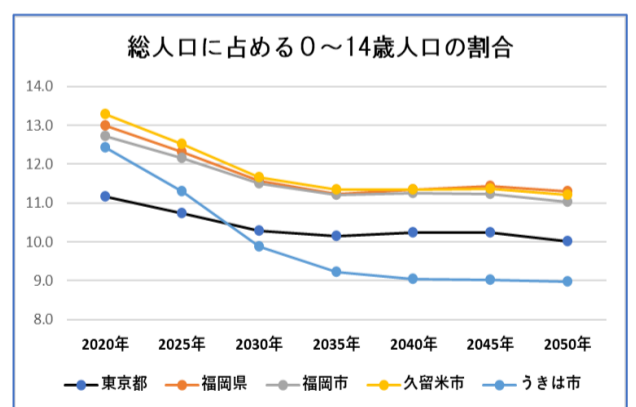
実数で言えば2050年の全国の65歳以上人口は、2020年と比べ68.4%の市区町村で減少します。人口減少と高齢化の中では、今後、労働力として活用すべき65歳以上すら減少するということです。

今回は高齢者の割合を福岡で見ます。



東京都と福岡市、福岡県と久留米市が同様のカーブで、久留米市の傾向はやはり福岡県の平均値です。

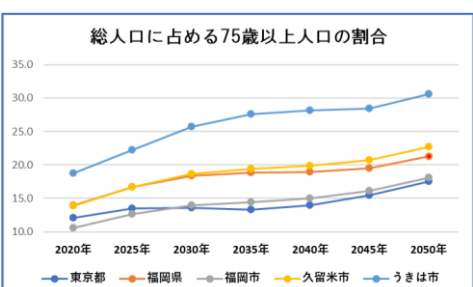
65歳以上の割合が増え、総人口が減る、ということは若年層が減る、つまり出生率の低下と言うことになります。



全国で言えば、2050年の0～14歳人口の実数は99%の市区町村で2020年を下回ります。

グラフが下げ止まっているように見えるのは過疎地域を中心に高齢者人口の急減等により一部に割合が上昇するからです。残酷な数字です。

私たちの生活を守るため、生み育てを社会が支える必要があり、大学卒業時までの医療費や教育費の無償化などの議論は身近な問題なのです。



75歳以上も当然ではありますが、65歳以上と同じような曲線です